

中医協「2010年度第9回 診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会」 2010/12/16
施設特性を考慮し、ばらつきの補正へ

12月16日の「診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会」（分科会長：西岡清・横浜市立みなと赤十字病院名誉院長）では、前回に続いて調整係数の役割等の検討が行われた。



事務局は、現行の調整係数が担っている①医療機関の円滑運営の確保（医療機関ごとのばらつきの吸収）、②DPC 制度参画へのインセンティブ——という役割について、今後どう考えるべきかという論点を提示。

①については、包括点数の設定の際、アウトライヤー（標準から逸脱した症例）のデータが除外されるために、同じ診断群分類でも医療機関ごとの医療資源投入量にばらつきが生じてしまうことから、調整係数の廃止後も包括評価分の収入を補正する必要があると説明。一定の医療機関に対し運営に支障が出ない程度の包括評価の収入が確保できるよう措置を講じることや、施設の病床規模と調整係数の間に相関関係が見られることなどから補正する際に施設特性を反映させることを提案した。これに対し、「100床未満の施設と特定機能病院を一緒にするのは無理がある」などの声が委員から上がり、了承された。また、現行の調整係数が DPC 参加年度の収入をベースに設定される仕組みになっていることについては、「いつまでも参加年度の収入を引きずるのは良くない」などの意見が相次ぎ、包括評価分の収入は“直近”の診療実績を踏まえ補正することで合意した。直近をどう定義するかは、今後検討される予定。②についても、何らかの形で残すことで意見が一致した。

■報酬算定制度の新呼称は「DPC/PDPS」

事務局はまた、「DPC」という呼称を整理する案を提示し、了承された。「DPC」という呼称は、①診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度（DPC 制度）を意味する場合、②患者分類としての診断群分類（DPC）を意味する場合——があることから、両者の使い分けを明確にすることが目的。これからは、①について「DPC/PDPS」（Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System）と呼び、両者を使い分けることになった。

■2009年度 DPC 調査、追加集計結果もほぼ変わらず

この日は、2009年度 DPC 調査の追加集計結果について報告があった。病院別、診断群分類等集計結果は既に6月の分科会で報告されており、今回の追加集計は8月の中医協・総会の決定を受けて行われたもの。病床規模や病床構成など施設類型等に基づいて再集計されている。しかし、この日示された追加集計結果は6月に報告された結果と大差が見られず、西岡分科会長は「かなり大規模な集計作業で、もう少し変化があればと期待したが、なかったということだ」と述べた。

次回の DPC 評価分科会の開催は、2011年1月13日の予定。